

■村島歸之 ジャーナリスト。いち早く社会の底辺の実態(路地裏)を暴き、盟友となった'賀川豊彦を世に出した男'。

むらしまよりゆき

足尾鉾毒始・1891= 奈良県桜井で、豊後杵築藩の武芸指南役の家柄で郡長つとめる滝口歸一の三男に生まれる。母は志賀。

日清戦争始・1894= 3歳:

子規句歌革新1898= 7歳: 父が立憲自由党から総選挙に立候補し初当選。桜井尋常小学校に入学。

Bushidou・・1899= 8歳: 代議士となった父に従い、一家で東京芝公園に移住、代用私立共栄尋常小学校に転校、

ビア/国産化・1900= 9歳:

教科書疑獄・1902=11歳: 一家の東京市内での転居に従い転校も繰り返しながら、食客が絶えず賑やかな家庭に育ち、無所属となった父が落選したため、尋常科を卒業すると、奈良に戻って桜井高等小学校に進む。

日露戦争始・1904=13歳: 父が日露戦役の忠勇顕彰会の編集主任となって、東京芝公園に到着き、東京市立鞆絵小学校に転校、

日露戦争終・1905=14歳: 卒業し、正則中学校に入学、英語を学ぶため、私塾にも通う。日比谷公園焼打事件に影響され、新聞記者をめざすようになる。

伊藤博文暗殺1909=18歳:

韓国併合・・1910=19歳: 早稲田大学高等予科政治経済学科に入学、

大逆事件判決1911=18歳: 大学部政治経済学科に進み、近くに下宿、沢田正二郎と知合い、以後親交。新劇に心酔する一方、社会問題にも関心もち、この年、**新聞社が慈善団を創設して社会事業を行うという世界を先駆けた大阪毎日新聞が主催した九州一周見学船に参加して三井炭坑内などで強い衝撃を受け、**

明治天皇没・1912=21歳: 永井柳太郎に師事して社会政策を学び、貧民街の公設住宅や救世軍病院などに印象受け、雑誌にも投稿、

大正政変・・1913=22歳: 三重の宮司となっていた父が胃癌で死去、母方の姓を継ぎ村嶋歸之となる。

第一次大戦始1914=23歳: 卒業論文執筆中に結核を発病し、大阪の姉のもとで静養、以後宿阿の病となる。

21ヶ条要求・1915=24歳: 卒業し、**大阪毎日新聞に入社。経済部を振出しに、ジャーナリストの人生が始まる。**

民本主義・・1916=25歳: **新聞記者らがまだ労働組合知らない時代に、(友愛会)の諸支部の事務所に出入り、早くも講演を依頼されるほどで、社内でも一目置かれるようになる。**

ロシア革命・1917=26歳: **貧民窟の路地裏に立って、「ドン底生活」「ドン底通信」を新聞に連載、**

本格政党内閣1918=27歳: **盟友となる久留弘三との出会いから神戸支局に転勤。「ドン底生活」刊行し、好評で出世作となる。その序を書いて貰った小滋重次郎から賀川豊彦を紹介され、運命的出会いとなる。**

ベルリン条約・1919=28歳: **続いて、米騒動の実態も踏まえた「生活不安」を刊行、日本最大規模のサボタージュを誘導、**

大暴落・・・1920=29歳: ***「サボタージュ:川崎造船所怠業の真相」刊行、[改造]の依頼で賀川に寄稿の橋渡し、賀川の大ベストセラー「死線を越えて」が実現したことで、のち「賀川豊彦を世に出した男」といわれ、様々なかたちで労働運動啓蒙に努めるが、新聞社にも労働組合ができたり、サボタージュに「同盟怠業」の言葉をあてたことで批判されるなど、立場が微妙になり、大阪本社に戻り、**

原敬首相暗殺1921=30歳: 「団体交渉権の真相」。肋膜炎で病臥する間、頻発する労働争議へ批判高まり、大阪毎日も抗議されるも、

水平社結成・1922=31歳: 労働運動に復帰、総同盟記者クラブの組織に関与するが、久留が突然総同盟を脱退し、自らも健康が要注意となって入院。久留・賀川の協力得て、**代表作「わが新開地(顕微鏡的研究)」。**

関東大震災・1923=32歳: 退院後、**盛んに教会に行くようになり、賀川の仲人で、しづゑと結婚。大震災の報に上京、本所で賀川の難民救済事業を支援するとともに、その惨状に衝撃受け、**

護憲三派圧勝1924=33歳: 一時東京日日新聞勤務で東京住まい。**賀川より受洗するに至り、**

治安維持法・1925=34歳: ***自らの放蕩買春を懺悔する「飲楽の墓」を連載刊行、それまでの自分と決別、労働運動からも手を引き、**

円本時代始・1926=35歳: 「ドン底の闇から」、**同盟内紛や政治問題に言及の一方、女性や青少年問題について発表して行く。**

金融恐慌・・1927=36歳: 「翼を失くした天使 不良少年の研究」、

共産党事件・1928=37歳: 谷崎潤一郎が妻千代のことで「蓼食ふ蟲」を連載していた時の担当記者をつとめる。「ドン底訪問」連載、

世界恐慌・・1929=38歳: **代表作「善き隣人」第一篇、今和次郎の影響受け、「道頓堀の考現学的研究」、代表作「CAFE」、**

海軍軍縮条約1930=39歳: **「心(斎橋)プラ人口調査」、**

満州事変・・1931=40歳: 「大阪毎日新聞慈善団二十年史」を担当し、その主事となる。**「カフェー考現学」、**

五一五事件・1932=41歳: 大阪社会事業連盟研究部長になるなど、**「善き隣人」第二編、社会事業方面に活動を広げ、ハンセン病患者とも交流、生涯最大の恩人という毎日新聞社長本山彦一が死去、**

帝人疑獄事件1934=43歳: ***関西を襲った室戸台風の被害(「海底に消えた癩院」もその一つ)に奔走、身体を痛めて、再び咯血し、**

芥川直木賞始1935=44歳: 自宅療養のため、病気休職となり、病院船の廃止や心血注いできた善隣館の解消に悲憤しながら、

二二六事件・1936=45歳:

日中戦争始・1937=46歳: **ついに退社。賀川の縁で、東京の社団法人白十字会総主事に就任。**

健保+総動員 1938=47歳: **「善き隣人」第三篇、**

日米開戦・・1941=50歳: 白十字会林間学校校長を兼任、

創価学会検挙1943=52歳: 「太陽の学校」。日本基督教団厚生局メンバーとしても活動、

敗戦・・・1945=54歳:

新憲法公布・1946=55歳: 白十字会林間学校の後身、私立平和女学校を開校して校長をつとめ、

独立回復・・1951=60歳: 私立学校法の施行により、賀川を理事長に学校法人平和学園を創設、専務理事・学園長・校長を兼務。

自衛隊発足・1954=63歳: この頃から、**寝たきりの状態となり、**

インスタントマン 1958=67歳: 「賀川豊彦病中闘史」、

安保闘争・・1960=69歳:

TV宇宙中継始1963=72歳:

大学紛争始・1965=74歳: 自伝「大馬鹿三太郎の生涯」を遺して、**没した。**

木村和世「路地裏の社会史」、インターネット、